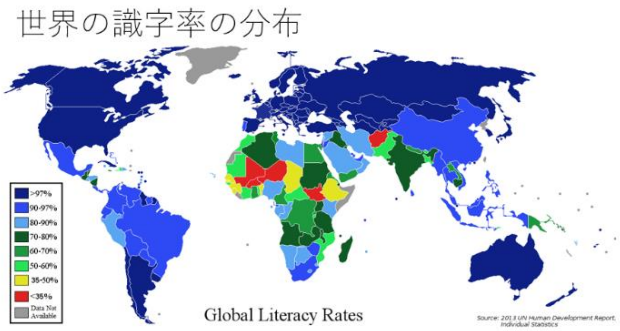
会長　森　裕司

『識字率』



9 月は「基本的教育と識字率向上月間」です。識字率の向上は1986年以来、国際ロータリーの強調事項であり、識字率向上運動はユネスコ協会と連携して行っています。

識字とは、文字に限らずさまざまな情報の読み書きや理解能力(リテラシー)のことを指します。そして識字率とは、一定の地域で「15 歳以上の人口に対し、日常生活に支障なく文字の読み書きのできる人の割合」を表します。世界の全人口は 80 億人に達しています。しかし、ユネスコの推計によりますと、世界にはいまだ 7 億 8100 万人の読み書きのできない方がおられ、特に女性は世界の非識字率人口の2/3を占めているといわれています。世界 183 カ国の中で識字率 90%以上の国は 104 ヶ国ある一方、70%に満たない国が 33 ヶ国、50%にも満たない国が 12 ヶ国もあります。日本では統計上識字率は 99.8%であり、残りの 0.2%は知的障害者、言語障害者といわれておりますが、補助器具による識字を行えば、実質は 100% と考えられます。そのため日本では、識字率向上に関する関心が極めて低いの が現状です。識字率が低い国には、教育や生活に関するさまざまな問題があります。

例えば、以下のような問題が挙げられます。

- 貧困や差別に苦しむ:識字率が低いと、就職やスキルアップの機会が減り、収入や生活水準が低くなります。また、女性や少数民族などの教育格差が広がり、人権や平等が侵害されます。
- 健康や安全に危険が及ぶ:識字率が低いと、病気や感染症の予防や治療に必要な情報を得られなかったり、薬の服用方法を誤ったりします。また、災害や事故の際に避難や救助の指示を読めなかったり、契約書や公文書を理解できなかったりします。
- 社会から取り残される:識字率が低いと、コミュニケーションや情報収集が困難になり、社会的な孤立や排除を感じます。また、政治や経済に関する知識や意見を持てず、市民としての権利や義務を果たせません。
- 子どもの教育にも影響が出る:識字率が低いと、親は子どもの学習をサポートできず、子どもの学力や進学率も低くなります。また、親自身が教育の価値を認めず、子どもにも教育を受けさせない場合もあります。

世界中で非識字者が多い一番の理由は、教育の問題です。特に開発途上国では、貧困のため教科書も行き渡らず、制服や文具を買うことも学校へ通うことも出来ません。社会生活を送るうえで必要な知識や技能を身につけることが、経済の発展や平和の維持に必要ですが、貧困や紛争などの国の情勢により十分な教 育を受けることができません。教育には時間が掛かり、すぐには効果が出ないため、基本的な人権であるにもかかわらず後回しにされています。

国際ロータリーは、世界の地域社会でテクノロジー、教員研修、職業研修チーム、給食、 廉価な教科書を提供する教育プロジェクトを支援しており、地域社会が基本的教育と識字率、教育機会における男女の差、成人の識字教育を自力で改善できるよう、その能力を高めることを目標としています。

今月は、世界における識字率の問題を再認識するとともに、識字率向上に関して、私たちロータリーで何ができるかを考えてみてはどうでしょう。